

七高SSH通信

H29・2・1
石川県立七尾高等学校
SSH推進室
平成28年度 第15号

人間環境 ディベート演習

10月から1年生理数科では学校設定科目「人間環境」の授業が行われています。「人間環境」では、人間と健康福祉についての総合的な学習を通して、科学者として相応しい生命観・倫理観を身に付けるものです。この科目では、ディベートを通して論理的思考力や表現力、討論力を身に付けます。

この授業ではディベートを行うことにより、自分の考えを根拠に基づき論理的に主張すること、人の意見を聞き自分の意見との違いを認め、相手の考えや思いを理解すること、そして、一歩踏み込んでその意見の違いをどう解決していくかなど、研究発表等で必要な質疑応答の能力を身に付けます。

ディベートの基礎について学ぶ

ディベートとは？

与えられたテーマの是非について、話し手（ディベーター）が肯定側・否定側に分けられ、決められた持ち時間・順番の中で、第三者（ジャッジ）を説得する形で議論を行います。スポーツやゲーム等と同様にきちんとしたルールがあり、勝ち負けがあります。勝ち負けの基準は、ジャッジをどちらがより「説得」できたかにあり、相手やジャッジを論破・圧倒・翻弄することではありません。

ディベートは、一般的に立論／尋問／反駁で構成されます。立論は自説を論理づけて説明し、これから行うディベートの論点と論拠を明確にするパートです。尋問は相手の立論に対しての質疑応答のパート。反駁とは立論の中で出てきた論点にそって、議論を深めるパートです。



全国教室ディベート連盟
北陸支部監事 伊井先生の講義

今回のテーマは「日本は人工妊娠中絶を禁止すべきである」です。このテーマに従ってディベートを行いました。メンバーで協力し合って下調べをし、作戦を練り、予想される質問に対する答えを想定するなど念入りに準備して本番に挑んでいました。決勝に進んだのは角間・河崎・寺井・富田・船山チーム、大窪・神代・階戸・延田・藤山チームの2チームで、1年生理数科全員が試合を観戦し、最後には観戦者全員の投票により勝ち負けを決めました。結果は肯定側（船山チーム）の勝利となりましたが、どちらの班も立論・反駁ともうまく組み立て、見応えのある試合でした。大勢の前でのディベート対戦ということで生徒達は大変緊張していたようですが、冷静に論じることができていました。審判も講評をうまく論じていました。



決勝戦を仕切りました



優勝チーム



準優勝チーム

保育実習



言葉をうまく話せない幼児と交流するには、子供の表情を読み取ったり、察したりする能力が問われます。幼い子供との交流を通して、他者との関係作りや思いやりの心を身につけることを目的に保育実習が行われました。予想のつかない行動に出る幼児と関わるのは苦戦することも多いですが、生徒たちは子供達と遊んだり、食事をさせたりすることで、子供と関わる楽しさ、小さな命を預かることの大切さを学んでいました。

「科学の芽」 努力賞受賞

この賞は、ノーベル賞受賞学者の朝永振一郎先生を記念し、筑波大学の主催で、小・中・高校生の研究に対して、授与されるものです。「ケイ効果」についての研究が受賞しました。



井表くん、笹谷くん、嶋田くん、堀下くん